

令和7年度第1回学校運営協議会 議事録

- ❖ 日時 令和7年5月13日(火) 14:30～16:30

- ❖ 場所 湖南高等学校 図書館

- ❖ 参加者
委員（敬称略・順不同）
佐藤 宗良、石田 慶仁、和田 祐樹、大内 紀男、薄 良枝、西脇 恵美、矢島 敦、
堀田 操、本田 康浩、荒 義紀
（欠席：桑名 秀一郎、渡部 智子）
事務局
長谷川 智彦、会田 房男、森 修、入江 格、
面川 雄一郎、渡部 実和子

- ❖ 内容
 - 1 開会のことば 教頭

 - 2 校長あいさつ
今年度4月に赴任しました。コミュニティ・スクールについて勉強しながら、学校運営を考えていく上で、委員の皆様から御意見を頂戴しながら進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

 - 3 出席者自己紹介

 - 4 会長、副会長互選（任期2年 * 2年目）
会 長 佐藤 宗良
副会長 薄 良枝

 - 5 会長、副会長あいさつ
会 長：昨年度に引き続き会長を務めさせていただきます。地元のすべてがわかるわけではないが、良いところがたくさんある。それらをより多く見ていただけるような時間場所を作って進行していきたい。

副会長：学校存続のため本会を創設する際に声をかけていただいてから関わっています。地元じゃない子たちも来たくくなるような学校・地域を目指して、様々な形で子どもたちと関わり合えればと考えています。よろしく願います。

6 報告事項

- (1) 令和7年度スクールミッション、スクールポリシーについて 教頭より
 - (2) 令和7年度学校経営・運営ビジョンについて 教頭より
3～4ページ参照。学校経営・運営ビジョンをもとに作成。
昨年度から大きな変更なし。
スクールポリシーのグラデュエーションポリシー
▶ビジョンの育てたい生徒像とリンク。
スクールポリシーのカリキュラムポリシー
▶ビジョンの重点4開かれた学校づくりと関連
(1～3も含めあくまでも横並び)
 - (3) 令和7年度各部の努力目標について 各担当より
5～10ページ参照。後ほど御確認ください。
 - (4) ルーブリック (KDGs) について 教頭より
3つの柱に4つの「身に付けてもらいたい資質能力」を入れて、C～Sで評価。
Sに向かうというより、CからBに行くにはどうしたらいいかを生徒と教師で考えることを大切にしていきたい。
 - (5) 事務部からの報告について 事務長より
12～13ページ参照。(6) その他→内部の改修。
- 会長 今の子供たちに和式トイレは難しい。地域の祭りで仮設トイレを設置する際も洋式を求められる。トイレを我慢する生徒が出ないように、ぜひ洋式にしてほしい。
- (6) 令和6年度学校評価アンケート結果について (別冊) 教頭より
全体的に極端な結果を出している評価は少ない。(別冊1ページ)
中学校時代に不登校だった生徒たちも湖南高校に入学して楽しいという声を聞く。学校運営協議会の皆様や地域の皆様の協力、教員自身が楽しさを伝えている姿が反映されているものと考えられる。

(7) 令和6年度学校運営協議会活動報告(別刷)

資料参照。

8 協議事項

(1) 令和7年度学校運営協議会活動計画(案) 教頭より

14ページと年間行事計画参照。

- ・今年度、公開文化祭を予定している。夏ごろから文化祭の準備が始まることもあるため、7月の学校運営協議会を行わず、10月に7月分と合わせて開催したい。文化祭の速報などもお知らせできればと考えている。

(2) 学校の魅力化のための意見交換

教頭 今年度初めて赴任したのでぜひみなさんのご意見を伺いたい。

4月に赴任して以降、城北埼玉高校と連絡調整や米粉大作戦の阿部さんとの調整を通して、地域探究型の取組に力を入れ、多種多様な活動をしている学校だと認識している。

ただ、積み木のようにやることを重ねてしまうと崩れるのも早い。崩れない土台をどのように作っていくか、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。

和田氏 メンバーが変わっていっている中で、今まで積み上げてきたものをいかに評価して今後に活かしていくかが重要だと私も考えている。そのためにはやはり、管理職が二人同時に変わることはないようにしてほしい。そのことを昨年度の議事録に書いてもらったのにも関わらず、学校運営協議会の人事に関する意見をひろうべきはずの県教委がその仕組みを守っていないのは問題だと考える。

湖南はとても協力的な地域。そのため地域内の取組は活性化しやすい。これからは、どう対外的に取り組みを伝えていくか。地域みらい留学を含めて、どう郡山市の最寄りの中学校や地域外に魅力を伝えていくか。日常の業務がある先生方が外に出ていくことは難しい中で、どのように外に湖南高校のファンを作って広めてもらうか。いかに外とつながるか。外と何を作り上げていくのか…等が重要だと考える。

校長 先ほどの人事のことは本会として強く訴えていただけるとありがたい。コミュニティ・スクールの継続性にも関わる。

湖南小中の校長と何度か打ち合わせをしている中で、湖南の子どもたちに

湖南高校に行きたいなと思ってもらうことが軸だという話をしている。そのために、湖南小中の子たちの前に、湖南高校の先生方の顔が見えることが大切である。顔を知ってもらい、知った人になってもらう。小中学生が高校にくることにはハードルがあるので、こちらから出向いて知った顔のおじさんやお兄さんになることで、親近感を持ってもらいたい。

先日、地域みらい留学の説明会に参加した。湖南高校は「検討している学校」としての位置づけで出席。以前から、全国から生徒を集める取り組みに興味があり、地域みらい留学を行っている島根の隠岐島前高校に訪問し勉強させていただくなどしている。それらの学びを踏まえて気づいたこととして、湖南が、猪苗代町や川俣町と決定的に違うのが、郡山市であること。つまり猪苗代や川俣は一自治体に一校の地域である。学校数が多い郡山市が湖南高校にどれだけ予算を出してくれるかも課題。先日の説明会で、「一自治体に複数の高校があつてうまくいっているところはあるか」の質問を投げかけた。まだ回答は来ていないが、重要なポイントだと考える。

また、現状の市の仕組みについて、学区に4月から住所があれば、どこからでも入学できるという仕組みである。転居の条件さえ満たしていれば、県外から入学者を獲得することは可能。ただ、そこで問題になってくるのが、保護者がいないことである。隠岐島前高校は町が保護者。寮を作って寮職員を配置している。町が保護者という特殊な状況で子どもたちを受け入れている。そういった課題を含め、直接教員の声だけでは市になかなか届かない。ぜひ協議会の力をお借りしたい。

和田氏 湖南町としても地域みらい留学という言葉を出さずに、民宿のような形で地域で受け入れる形を5年前に検討してみたが、地域の中で昔民宿を営まれていた方たちはご高齢になられていて難しいという結論に至った。ところが2年前に逆に市の方からリクエストをいただいたので、再度協議を始めた。湖南町は薄さんたちが通してくださったバスがある。保護者目線で湖南町の民宿等で受け入れるとなると心配だが、市内からバスで通えるのであればセキュリティ面も安心。もしくはハーモニー湖南(旧福祉施設)が使用可能かもしれない。ただ、まず何よりも地域みらい留学の課題は、あれだけの学校が出ている中で、どれだけ興味を持ってもらって選んでもらえるか、最初の一人にどう選んでもらえるかである。湖南高校は郡山の中では特色ある学校だが、県や全国で見たときに弱い。そのため、第三者から見てもらわないと気づけない魅力をみつけてもらう必要がある。一人を獲得するために、学校と地域全体で頑張らないといけない。

校長 魅力を伝えるために、まずは子どもたち自身が魅力を感じる事が大切。子どもたちにとってメリットだと感じるものを前面に押し出してアピールしていきたい。

会長 再度郡山市の職員にも来てもらってご意見を伺いながら、前に一歩ずつ進んでいきたい。

(3) 学校評議員からの提言

校長 年間計画参照。雪灯籠祭りについて、ここ2年間実施している。前回の文化祭の時はやっていない。今年度雪灯籠祭りとは文化祭をどちらもやるとなると、授業時数が足りなくなることが分かった。何回かシミュレーションを行ったが、不可能であった。今年度については雪灯籠を見送ろうと思っている。この点についてご承諾をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

薄氏 森先生がお話されていたが、先生方が子どもに合わせた授業をしているのはすごいこと。その努力もしながら、色んなことをやらせて、結果的に時数不足で卒業できなくなってしまうのはかわいそう。

会長 雪灯籠は湖南でしかできないことなので、なくなってしまうのは悲しい。どうにかして開催できないか。

本田氏 文化祭を冬にもってくることはできないか。

和田氏 未履修問題は25年前の出来事だったと記憶している。自分がその世代だったが、春休みに学校に通って履修することになったという大変な記憶がある。ただ、この2年間、みなさんが大切にしていたことは生徒たちが主体となってやることである。その先輩方のうしろ姿を見てきた子たちがバトンをつないできた。子どもたちはどう考えているのか知りたい。

城北埼玉高校もそのイベントを面白がってパートナーシップを組んできた。そういった繋がりのある学校の意見はどうか。

また、開催するための工夫として、例えば、総合的な探究の中での授業の一部を使うのはどうか。現在の総合探究の授業内容を今年度は見送って、雪灯籠に替えられないか。地域としては雪灯籠をやってほしいという思いがある。

教頭 城北埼玉には連絡済み。ご理解いただいております、別な形でやっていけないか、打ち合わせをする予定。代替は難しいのでは。

石田氏 今、やめてしまうとバトンをつなぐのはむずかしいのではないかと。

校長 バトンを一旦置くと考えてほしい。2年やって1年休むという形。

養護 実際の子どもたちの様子として、過去2年間の開催でももちろん成長した生徒もいるが、その裏で、忙しさに追い詰められ保健室で涙を流した生徒も少なくない。どちらもできたらいいのかもしれないが、器用な生徒ばかりではなく、普段から時数が危ない（進級卒業に関わる）生徒もいる本校においては、行事を詰め込んでしまうと、補充確保の余裕も持てない状況を作ってしまう。時間はかかっても、一つ一つ向き合い頑張っている生徒たちを、そこまで追い込みたくはない。今年度に限っては、文化祭にしっかり時間をかけて全力で楽しめるようにさせてあげたい。

和田氏 大人の事情ではなく生徒のためであれば異論はない。

矢島氏 過去の雪灯籠祭りを見ていて、生徒たちは、生き生きと行事をやっており、大変すばらしかった。ただ、生徒の負担軽減も考え、文化祭のある今年度に限ってはやらない形が良いのでは。

大内氏 生徒自身の気持ちを大事に、2年開催、1年休みの形でつないでいければいいのでは。湖南しかできない取り組みは大切にしていきたい。

薄氏 2年開催1年休みを通常にしていければ良いと思う。

森 もともと雪灯籠は授業のカリキュラムに落とし込むことなく、校長とそば部+有志でやっていた。そのあとだんだん規模が大きくなっていった。去年から学校行事に組み込んだので、授業時数等考慮しないといけない部分が増えてきた。授業をつぶしながらやっていた。今年は公開文化祭があって、同時並行は難しい。行事の精選ができればとは考えている。

大内氏 生徒が追いつめられるようなことがあってはならない。

和田氏　もしこの協議会で結論が必要であれば、内容によってだが今後は事前にお知らせがほしい。ただ、今回は管理職が二人変わったため、そういった事前対応も難しい…。その意味でも管理職が同時に変わらないよう配慮する人事が大切だと考える。

これまでの取り組みは風呂敷を広げる時期であったが、今後はそれらを評価し精査する時期としていくことも大事。その精査をするときに、内部だけでは見方が偏る。ここにいる人たちは地域の人たちなので、外の目線を持っている人に意見をもらい、その意見を重視して精査してほしい。また、大人が決めることも大事だが、生徒自治も大切にしてほしい。現状が難しいのはわかっているが、そこを目指してほしい。

校長　第1回の際は生徒自治の形だったと思われる。しかし規模の拡大とともに変わってきた様子がうかがえる。生徒主体の活動が好きなものを選ぶだけの活動にならないよう、大人側でも調整しながらやっていきたい。

今年度は文化祭に専念し、雪灯籠祭りは見送るという結論でよろしいか。

委員 承認。

(4) その他

8 その他

○読売新聞「デジタル教科書への懸念。脱デジタル化について」 会長より

森　SNSトラブルは発生している。生徒たちが自由にスマホを活用できる以上、なかなか介入が難しい。デジタル機器は生徒たちの欲望を刺激するデバイスだと日々感じている。包丁と一緒に必要だが危険であるということはどうやって伝えていくか。学校だけでは限界があると感じる。

私用スマホについては原則スクールタイム中及び校舎内では使用禁止だが、生徒たちが探究活動で使うときは学校のポケット Wi-Fi を利用して使用させている。

矢島氏　学校の魅力化という点でいうと、やはり施設設備環境も非常に重要だと考える。

事務長　要望の理由や根拠となる資料を添付して要望させていただいている。昨年度のトイレの洋式化についても、学校運営協議会の議事録も資料として添付

した。今後も校舎の大規模改修を視野に入れつつ委員の皆様からの意見を伺いながら進めていきたい。

9 閉会のことば

※諸連絡

次回、第2回 10月10日（金）

（16：30終了）